

薬剤部 DI ニュース

高齢者と薬について

◆高齢者が薬を服用する際は注意が必要と聞きますが、それはなぜですか？

高齢になると複数の病気を抱える人が増え、それらの治療のために何種類もの薬と一緒に処方されることが多くなり、また、身体機能の低下により若いころに比べ薬の効き方などに変化が起こります。

何種類もの薬を飲むことで、薬物間相互作用や処方・調剤の誤り、飲み忘れ、飲み間違いにつながり、結果として思わぬ副作用を招きやすくなります。また、服用する手間という意味でも患者に不利益をもたらしかねません。

多くの場合、口から服用した薬は小腸で吸収され、血流に乗って全身をめぐる効果を発揮します。薬は肝臓で分解され、腎臓から尿として体の外へ排泄されますが、加齢に伴い唾液分泌や食道の運動性が低下すると、薬が口腔内や食道に付着し、口腔内・食道潰瘍や誤嚥性肺炎などを引き起こす原因となります。また、肝臓や腎臓の機能が低下すると、薬を分解・排泄する能力が弱くなり、薬が体内に長く留まるようになるため、薬の効果が必要以上に持続、あるいは効きすぎてしまうといった影響が出る場合があります。

◆高齢者に多い副作用にはどういった症状がありますか？

高齢者に起きやすい副作用のひとつが、ふらつき・転倒です。高齢になり筋力や感覚機能が低下すると、睡眠薬のような筋弛緩作用のある薬や、降圧薬のようなめまい・ふらつきが起きやすい薬を服用することで、身体を支えきれずに転倒することがあります。さらに、高齢者は骨も弱くなっているため、転倒による骨折をきっかけに寝たきりとなり、場合によっては寝たきりから認知症につながる可能性もあります。またこれ以外にも、物忘れやうつせん妄、食欲低下、便秘、排尿困難など起きやすくなるため注意が必要です。

※下記の表に注意が必要な薬についてまとめています。

薬の分類	薬の種類	主な副作用
睡眠薬	ベンゾジアゼピン系	ふらつき・転倒、認知機能の低下、せん妄
	非ベンゾジアゼピン系	ふらつき・転倒、ベンゾジアゼピン系と同様の副作用の可能性
抗うつ薬	三環系抗うつ薬	認知機能の低下、せん妄、便秘、口渇
抗血栓薬	抗血小板薬	消化管出血、脳出血
	抗凝固薬	
高血圧治療薬	ループ系利尿薬	立ちくらみ、転倒、腎機能低下
	非選択的 α 遮断薬	立ちくらみ、転倒
	非選択的 β 遮断薬	呼吸器疾患の悪化、喘息発作誘発
消化性潰瘍治療薬	H ₂ 受容体拮抗薬	認知機能の低下、せん妄
糖尿病治療薬	スルホニル尿素薬	低血糖
	インスリン製剤	
	チアゾリジン薬	骨粗鬆症・骨折、心不全
	ビグアナイド薬	低血糖、乳酸アシドーシス
	SGLT2 阻害薬	低血糖、脱水、尿路・性器感染症
非ステロイド系抗炎症薬	NSAIDs	胃潰瘍、腎機能低下